人に優しい材料、木材の有効活用をめざして　～間伐材を活用した福祉用具の開発～

芦北高等学校　林業科　森林資源活用班

1　研究動機

木材は、軽くて丈夫で肌触りがよく、炭素を蓄える効果もあり、人にも環境にも優しい材料です。現在、日本では伐期に達した森林が数多くあり、林業や木材の生産、販売に携わる方々が、その森林資源の有効な活用方法を模索し実践されています。私たちは、森林資源の有効活用のために、間伐材の活用を目的として新たな木工品の開発・製作の研究を行っています。

新たな木工品の開発を進める中で、「福祉分野」での活用に着目しました。福祉施設では、市販の福祉用具だけでなく、認知症予防などのために利用者の方々にあった福祉用具を手作りされています。新たな木材資源の活用手段として、本校福祉科の協力のもと、私たちは福祉用具開発の研究に取組みました。

2　研究内容

(1) 福祉用具についての学習

福祉用具の製作のために、本校福祉科の先生方から福祉の現状と市販されている福祉用具について説明していただきました。木製の福祉用具は高価なものが多いですが、温かみがあり、肌ざわりが優しいので福祉の現場でのニーズは高いそうです。

私たちの日常生活は、「食事や睡眠」といった、生きていく為の行為と、「仕事や勉強」といった具体的な目的を持った行為の組み合わせで成り立っています。福祉用具とは、この日常の生活行為を自立して行うための用具です。また、生活を楽しむためのレクリエーションの用具もあります。

(2) 新たな福祉用具の製作

福祉施設では、パズルやオセロなどを手足の機能回復や脳の活性化を目的にしたレクリエーション活動で使われています。そこで、私たちはレクリエーション活動で活用できる福祉用具を製作しました。

(3) 福祉施設での製品の試用と評価

本校福祉科が介護実習でお世話になっている町内の施設にお願いして、試作品を利用者の方々に使っていただきました。

障がい者施設では、オセロゲームが好評でした。また、高齢者介護施設では札裏返し競争やパズルなどが好評で、「オセロはルールを知らない」という利用者の方もいらっしゃいましたが、駒が大きく高齢者にとって使いやすいと施設の方から好評でした。

3　まとめ

福祉施設で行われるレクリエーション活動は、認知症予防や障がい者のリハビリなどの効果があり、利用者同士の交流も図れるため、施設での生活を豊かにする手段として活用されています。しかし、高価な用具が多く、木製品の数も多くはありません。そのため、今回製作した用具はとても喜ばれ、製品の商品化の要望があり販売をしてほしいという声を多数聞くことができ、製作した充実感と喜びを感じることができました。

今回の結果から、人に優しい材料である木材の有効活用の一つとして、福祉用具の製作･販売が福祉施設において需要があるということが分かりました。今後は、施設の方々からの感想や意見をもとに製品を改良し、町内の福祉施設への販売やプレゼントができればと考えています。